

別記(第5条関係)

入 札 心 得

(趣旨)

第1 競争入札に参加しようとする者(以下「入札参加者」という。)は、別に備える設計図書、建設工事請負契約書(案)又は委託契約書(案)、この入札心得及び現場等を熟覧のうえ入札しなければならない。

(入札保証金の納付)

第2 入札参加者は、入札執行前に見積もった総額の100分の5以上の金額を入札保証金として納付しなければならない。ただし、次の各号の一に該当するときは、これの全部又は一部を納めないことができる。

(1) 入札参加者が保険会社との間に、伊那中央行政組合(以下「組合」という。)を被保険者とする入札保証契約を締結し、当該保証保険契約書を組合長に提出して確認を得たとき。

(2) 入札参加者が過去2年間に、組合、国又は他の地方公共団体と、種類及び規模をほぼ同じくする契約を2回以上誠実に履行した実績を有する者で、かつ、その者が契約を締結しないこととなるおそれがないと組合長が認めたとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、前号に準ずるものであって、その者が契約を締結しないこととなるおそれがないと組合長が認めたとき。

2 落札者が契約を締結しないときは、納めないこととした金額に相当する金額を納付しなければならない。

(入札の方法)

第3 入札参加者は、入札書に所要事項を記入し、これを入札日時までに入札場所に差し出さなければならない。

2 この入札は、工事等の総額について見積もらなければならない。ただし、入札書に記載する金額は、消費税に係る課税事業者であると免税事業者であることを問わず、見積もった金額の108分の100に相当する金額を記載

し、かつ、箇所ごとに作成しなければならない。

- 3 入札参加者が代理人として入札させるときは、入札執行前に委任状を組合長に提出して確認を受けなければならない。
- 4 入札参加者又は代理人は、当該入札に対する他の入札参加者の代理をすることはできない。
- 5 一度提出した入札書は、書替え、引換え又は撤回することはできない。
(公正な入札の確保)

第4 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号)等に抵触する行為を行ってはならない。
(入札の辞退)

第5 入札参加者は、入札執行の完了に至るまでは、いつでも入札を辞退することができる。

- 2 入札を辞退するときは、その旨を次の各号に掲げるところにより申し出るものとする。
 - (1) 入札執行前にあつては、入札辞退届を直接持参又は郵送(入札日の前日までに到達するものに限る。)して行う。
 - (2) 入札執行中にあつては、入札辞退届又はその旨を明記した入札書を入札を執行する者に直接提出して行う。

3 入札を辞退した者は、これを理由として以後の指名等について不利益な取扱を受けるものではない。
(入札の取りやめ等)

第6 入札参加者が協定し、又は不穩の行動をなす等により入札が公正に執行することができないと認められるときは、組合長は当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し若しくは取りやめることがある。
(入札の無効)

第7 次の各号のいずれかに該当する入札書は、無効とする。

- (1) 入札に参加する資格のない者の入札した入札書

- (2) 同一人が入札した2通以上の入札書
- (3) 入札参加者が協定して入札した入札書
- (4) 金額を訂正した入札書
- (5) 記名、押印のない入札書
- (6) 誤字、脱字等により意思表示が明確でない入札書
- (7) 前各号に掲げるもののほか、入札条件に違反して入札した入札書
(開札)

第8 開札は、入札場所において、入札終了後直ちに、入札参加者立会いにより行うものとする。

(落札者及び落札価格の決定)

第9 入札を行った者のうち、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札した者を落札者とする。ただし、その者の入札価格が次の各号のいずれかに該当する場合にあっては、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち、最低の価格をもって入札した者を落札者とする。

- (1) 最低制限価格を設けてある場合に、入札価格が最低制限価格未満であるとき。
- (2) 落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき。
- (3) 落札者となるべき者と契約を締結することが、公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不適當であると認められるとき。

2 前項第2号又は第3号に該当する入札を行った者は、組合長の行う調査に協力しなければならない。

3 落札となるべき同価格の入札をした者が2名以上あるときは、直ちに当該入札をした者にくじを引かせて落札者を定めるものとする。

4 前項の場合において、当該入札をした者のうち、くじを引かない者があるときは、これに代って入札事務に関係のない本組合の職員にくじを引かせるものとする。

5 落札価格の決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の8に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数のあるときは、その端数金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とする。

(再度入札)

第10 開札をした場合において、各人の入札のうち予定価格の制限の範囲内の価格の入札がないときは、直ちに当初に入札した者のうち現に開札場所にとどまっている者により再度の入札を行うものとする。

(入札保証金の処理)

第11 入札保証金は、落札者が決定したときは直ちに、還付するものとする。ただし、落札者に対しては、契約を締結した後これを還付し、又は契約保証金の納付に振り替えるものとする。

(金銭的な契約保証)

第12 組合長が契約の保証として金銭的保証を求めた場合、落札者は、契約の締結と同時に次に掲げる保証のいずれかを付さなければならない。ただし、第5号の場合においては、履行保証保険契約の締結後、直ちにその保険証券を組合長に寄託しなければならない。

(1) 契約保証金の納付

(2) 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供

(3) この契約による債務の不履行により生ずる損害金の支払いを保証する銀行、組合長が確実と認める金融機関又は保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社をいう。）の保証

(4) この契約による債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証

(5) この契約による債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約の締結

2 前項の保証に係る契約保証金の額、保証金額又は保険金額は、請負代金

額の10分の1以上としなければならない。ただし次の各号の一に該当するときは、この保証を付さないことができる。

- (1) 契約金額が50万円未満であり、かつ、契約人が契約を確実に履行するものと組合長が認めたとき。
 - (2) 契約金額が50万円以上500万円未満の工事で、落札者が過去2年間に国又は地方公共団体と、種類及び規模をほぼ同じくする契約を2回以上誠実に履行した実績を有する者で、かつ、その者が当該契約を確実に履行するものと組合長が認めたとき。
- 3 第1項の規定により、落札者が同項第2号及び第3号に掲げる保証を付したときは、当該保証は契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第4号及び第5号に掲げる保証を付したときは、契約保証金の納付を免除する。
- 4 契約人が契約を履行しないときは、契約金額の10分の1に相当する金額を違約金として納付しなければならない。

(役務的な契約保証)

第13 組合長が契約の保証として役務的保証を求めた場合、落札者は、契約の締結と同時に、この契約による債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証（かし担保特約を付したものに限る。）を付さなければならない。

- 2 前項の場合において、保証金額は、請負代金額の10分の3以上としなければならない。
- 3 請負代金額の変更があった場合には、保証金額が変更後の請負代金額の10分の3に達するまで、組合長は保証金額の増額を請求することができ、契約人は、保証金額の減額を請求することができる。

(契約の締結)

第14 落札者は、落札決定後5日以内に契約を締結しなければならない。

ただし、予定価格が1億5,000万円以上の工事については、仮契約とする。

2 前項ただし書の工事については、伊那中央行政組合議会の議決を経た後に本契約を締結するものとする。

3 契約に要する経費は、落札者の負担とする。

(工事等の着手)

第15 契約人は、契約（本契約）締結後10日以内に、工事等に着手しなければならない。

(技術者の配置等)

第16 契約人は、建設業法（昭和24年法律第100号）に規定する技術者又は別に定める要件を満たす技術者を配置しなければならない。

2 契約人は、契約した工事に係る下請代金の額が、建設業法第3条第1項第2号の政令で定める金額以上となる工事については、その下請けの状況を文書で組合長に報告しなければならない。